

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

1. 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む
2. 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む
3. 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む
4. 共に学び、友と育つ力を育む

## 2 中期的目標

## 1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上 ～知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む

(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。

- ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ちの定着・改善に取り組む。
- イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。

※年間遅刻者数を令和6年度には10%減を実現する。(R1 : 2,750回、R2 : 3,109回、R3 : 2,937回)

(2) 支援教育の充実でいじめのない学校づくりを推進する。

- ア 教育支援委員会、担任、保健室など生徒情報の共有と相談体制を充実させ、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
- イ 「ポジティブ行動支援」による「ほめる。認める。励ます。」を充実させ、笑顔を増やす。
- ウ 教育支援カード、個別の支援計画等を活用する。個別支援については、「合理的配慮」の観点から具体的な方法を講じる。
- エ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、キャリアカウンセラーの活用継続とともに、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを充実させる。子ども家庭センターなどとの連携により生徒支援をさらに充実させる。
- オ いじめの防止、早期発見に努めるとともに、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することにより、他人を思いやる気持ちを育成し、人権感覚を身につけさせる。

※学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」前年度以上を維持。(R1 : 73.9%、R2 : 75.6%、R3 : 82.8%)

## 2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ ～自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む

(1) わかる授業をめざし、授業力の向上に取り組む。

- ア 10年研チーム(10年経験者、ミドルリーダー)を核とした、日常的な自主研修から授業力向上につなげる。
- イ ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業、ICTを活用した授業を構築し、生徒の学習意欲をUPさせる。
- ウ オンライン学習、タブレットを活用した学習について、研修を充実させ向上を図る。
- エ 他の府立高校、支援学校、近隣市教育委員会、近隣中学校と連携し、公開授業、教職員研修を充実させる。
- オ 教員相互の授業見学を推進する。

※ 学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」を令和6年度には75%以上をめざす。(R1 : 70.5%、R2 : 73.4%、R3 : 75.6%)

(2) キャリア教育を充実させ進路保障していく。

- ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。1・2年からガイダンスを行い、職業観を育成し、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。また、学力向上を推進するための組織的な取り組みを行う。
- イ キャリアパスポート活用を令和6年度までに充実させる。
- ウ 漢字検定や毎日パソコンコンクールについて引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。
- エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。

※ 卒業時の進路決定者を令和6年度に97%にする。(R1 : 96.0%、R2 : 97.0%、R3 : 100%)

※ 生徒・保護者の進路指導満足度を令和6年度にともに85%以上にする。

(生徒・保護者 R1 : 83.4%・76.3%、R2 : 89.9%・83.0%、R3 : 88.5%・79.1%)

※ 就職内定率は100%の達成・継続をめざす。

## 3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実 ～真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む

ア 部活動・行事の一層の充実を図るとともに、環境整備に努める。また、部活動加入率を令和6年度には45%以上をめざす。(R1 : 35.1%、R2 : 40.6%、R3 : 45.0%)

- イ 楽しい行事の実施を実現し、生徒が運営面においても経験を積むことができるよう指導する。
- ウ 部活動や生徒会活動などで中学校や地域との交流、地域貢献することを推進する。
- エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。(再掲)
- オ 学校説明会・体験入学、中学校・塾などへの訪問活動で本校の良さを発信する。学校ホームページ(ブログなど)、広報グッズ(マスコットなど)、メールマガジン等を充実させ、積極的に情報を発信する。PTAと連携し、保護者への情報発信を充実させる。

※学校行事への肯定値を前年度以上に向上させる。(R1 : 53.0%、R2 : 71.8%、R3 : 68.9%)

## 4. 共生推進教室の一層の充実とインクルーシブな学校づくりをすすめる。

- ア 信太高校全体の活動を通じて、すべての生徒に「ともに学び、友と育つ」教育をすすめる。
- イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が協力し、関係機関との連携で共生生徒の就労実現と自立に向けた取組みをすすめる。

## 5. 「チーム信太」で力を合わせて生徒を育てる体制づくり

- ア 教職員相互の信頼・意思疎通、学校運営への参画意識を醸成し、「やってみよう」の精神でアイデア発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。「10年研チーム」やミドルリーダーには経験年数の少ない教員のメンターとして活躍してもらう。
- イ 働き方改革を推進し、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>◇学校運営・環境</p> <p>学校設備について整備できていると捉えているのは、生徒・保護者ともに80%を超えているが、教員では70%に満たない。学習指導要領などで求められる教育活動の変化に対して、教員側が設備面不備を覚えているのだろう。教員への細かなリサーチが必要である。</p> <p>似た内容の項目であるのに、生徒・保護者・教員の間の認識のずれが少なからず存在する。まずは今後の学校の方向性などをつけていくために、正しいリサーチと分析に基づいたプランを立てること、そして、それを周知していくことを大切にしなければならない。そうすることで、学校全体として、強い推進力で改善・運営を行えると思われる。</p> <p>◇教育相談・人権</p> <p>「いじめや暴力のない学校づくりに努力している」「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」(生徒)、「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う」(保護者)の項目では、生徒・保護者ともに昨年度より減少している。いじめ防止対策委員会を中心に、毎年いじめアンケートを実施し、教員で聞き取りを行い対応する体制をとっているが、SNS上での暴言など、学校空間以外で顕在化しにくいものをどのようにキャッチしていくかが課題となろう。</p> <p>教育支援・教育相談体制については、昨年度同様、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校作りに努めていることから、一定数の肯定的回答が見られるものの少しの停滞が認められる。しかし、全体的な方向性はそのまま、さらに相談しやすい雰囲気づくりなどを意識していく。</p> <p>◇学校生活</p> <p>「ホームルーム活動は活発で生徒同士の関係が良い」の項目は上昇しており、ここ数年のうちで最高水準に達している。</p> <p>今後も変わらず、生徒が楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようしていくことが重要である。課題としては、『たのしさ』の概念について乖離が起こっている部分にあらう。ホームルーム活動の評価が高いことも活用して、生徒の学校生活への前向きな取組なども促しながら、行事などの改善をしていく必要がある。</p> <p>◇学習・体験</p> <p>検定試験への学校の取り組みについては教員・生徒からの肯定的な意見は増加している。授業やホームルーム、進路行事などさまざまな面からの学習への動機づけ、サポート体制が整っていることが理由の一つとして考えられる。</p> <p>体験活動については生徒と保護者からの肯定的な意見が減少している。コロナ禍の影響によって実施が難しかったことが影響している。生徒や保護者から体験活動が期待されていることがうかがえる。</p> <p>教員が学習に対して肯定的な意見が増加しているなか、生徒にとっては肯定的な意見が減少している。観点別評価の影響で授業や評価の方法を試行錯誤している。その取り組みがより効果的になるようこれからも検討が必要だと考えられる。</p> <p>◇進路指導・生活指導</p> <p>進路指導に関しては、進路行事や校外での体験行事を充実させることで、進路について考える機会を充実させる。生徒が進路実現に向けて、どのような取り組みをしているのかが、保護者にも伝わる形で発信していくようにしたい。</p> <p>生徒指導に関しては、納得していないがルールは守っているという生徒が一定数いる。ルールを守っているという項目で肯定的な意見が非常に高いため、その数値の維持を目指す。そして、生徒指導を行う際にも、しっかりと双方が納得できるように説明を行うことが必要となってくる。また「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」については生徒・保護者・教員すべてにおいて微減ではあるが約80%の肯定的評価を得ている。生徒指導は社会に出た時の基礎となる部分であるという考えを教員・生徒・保護者がしっかりと共有し、この数値の更にも上昇させる必要があるだろう。</p> <p>◇特別活動・その他</p> <p>部活動の加入率の増加を目指し、より一層部活動の活性化を図る。国際交流やボランティア活動など、生徒が中心となって、達成感や成長を実感できる取り組みを進めていく必要がある。保護者への情報提供については、ホームページや通信アプリなどをうまく活用するなど、情報提供方法を工夫していく。</p>	<p>第1回 令和4年6月24日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度学校経営計画の修正・加筆について承認を得る。</li> <li>地域と連携した活動等の開催について情報交換。</li> <li>学校におけるマスクの取り扱いについて情報交換。</li> <li>近年増加傾向のヤングケアラーに関して、スクールカウンセラー等の専門家確保の依頼があった。</li> <li>人権問題(LGBTQ等)の啓発活動への重点的な取り組みの依頼があった。</li> <li>キャリアコンサルタントの活用について情報交換。</li> </ul> <p>第2回 令和4年11月18日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の在り方(合同部活動)について、学びの場の確保等、意見交換。</li> <li>複数社応募制の導入に伴う進路指導について情報共有。キャリア教育と総合探究の関連について質問があり具体を説明。総合探究のプログラムは、1年で自分の適性を知り、2年で社会との繋がりを深め、3年で志望動機と自己PRに発展するものであることを説明。</li> <li>学校教育自己診断で、1人1台端末に関連する質問項目が生徒に設けられたことに対し、教職員にも同じ項目が必要ではと意見が出た。後日検討の結果、項目を導入することとした。</li> <li>スクール・ミッションに係り、スクール・ポリシーの策定として、原案を提示し了承を得る。</li> <li>学校におけるマスクの取り扱いを情報交換。</li> </ul> <p>第3回：令和5年2月3日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回授業アンケートについて</li> </ul> <p>→(質問)教育相談の項目が、経年変化で右肩上りの理由は何か？</p> <p>(回答)SCやSSWの来校回数が増えていること、居場所づくりに「なごみカフェ」を昼休みに設定したり、子ども家庭センターと連携し定期的に入権(いじめ)アンケートを集約するなど、きめ細かな対応をしていることが背景と思う。</p> <p>→(質問)自分たちの時代と比較して、少子高齢化から大人の過干渉になったり、情報量が全く異なるのに、古い校則に拘っていないか。</p> <p>(回答)理由のない校則は決めていない。時代の流れに応じて生徒の意見も大切にしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度学校経営計画及び学校評価について</li> </ul> <p>→(質問)すながわ高等支援学校との交流内容と、本校生徒の退学傾向について教えて欲しい。</p> <p>(回答)今年度は相互の授業見学を2回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度学校経営計画及び学校評価について説明</li> </ul> <p>→(質問)中学校訪問について触れているが、内容を教えて欲しい。</p> <p>(回答)入試が終わって、合格者生徒の情報共有のため中学校訪問に行ったり、秋季に受験生への学校案内や中学生の志望動向についての情報共有をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換</li> </ul> <p>→(意見)地元では昔の学校イメージ(登下校マナーが悪いなど)を引きずっている。現状と異なるので払拭して欲しい。</p> <p>→(意見)今の子どもたちには、居場所がない。信太高校には、居場所カフェがあるなど良いことだと思う。もっと高校生がのびのびと出来るようになって欲しい。</p>

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度]	自己評価
1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上	<p>(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。 ア あいさつ運動・服装頭髪指導。</p> <p>イ 学校と家庭が連携した、遅刻指導。</p> <p>(2) いじめのない学校づくり ア 相談体制の充実。</p> <p>イ 「ポジティブ行動支援」による指導。</p> <p>ウ スクールカウンセラーなど、外部人材・外部機関の活用。</p> <p>エ いじめの防止。</p>	<p>(1) ア 社会人基礎力の育成のため、生徒指導の目的を理解させたうえで、あらゆる場面で「あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ち」などの基本的生活習慣の定着・改善を推進する。 全職員による早朝の服装頭髪指導（月2回）を継続する。</p> <p>イ 遅刻カード、早朝登校、保護者との連携などを取り入れた遅刻指導を推進する。他学年の遅刻数も含めた遅刻数の速報を適宜公開し、生徒と教員の意識づけと士気を高める。</p> <p>(2) ア 教育支援委員会、担任会、保健室等の間で生徒情報の把握を速やかに行い、支援内容などを、職員会議等において全教員で共有化する。</p> <p>イ 「ポジティブ行動支援」の取り組みを増やす。</p> <p>ウ SC、SSW、CC、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」など外部人材の協力を得て、専門的知識に基づいた生徒支援を充実させる。子ども家庭センター等の外部機関との連携で生徒支援を組織的に行う。</p> <p>エ 人権教育推進委員会、いじめ防止・対策委員会を中心に、「いじめアンケート」を活用し、いじめ防止、早期発見、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することを継続する。</p>	<p>(1) ア・全職員による毎朝の挨拶運動と服装頭髪指導（月2回）において、生徒への声掛けを充実する。 ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」前年度以上を維持。[67.6%]</p> <p>イ・年間延べ遅刻件数前年度比10%減。[2,937回]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」75%以上維持。[82.8%]</p> <p>ウ・外部機関との連携を学期に1回以上実施。</p> <p>エ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」前年度水準を維持。[82.5%] ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」前年度水準を維持。[79.4%]</p>	<p>(1) ア・朝の立ち番で身だしなみや時間遵守の姿勢が浸透し維持できている(○)</p> <p>・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」[57.5%](△)</p> <p>イ・年間延べ遅刻件数前年度比10%減。[2171回](◎)</p> <p>(2) ア・生徒一人ひとりに応じた支援をきめ細かくできた。学校教育自己診断[83.9%](○)</p> <p>イ 「ポジティブ行動支援」共生推進教室実践報告会(10/29開催)で共生生徒3名が舞台に立つ。</p> <p>ウ・SSW、キャリアカウンセラーによる講演会実施。地域の子ども家庭センターと連携し一時保護や見守りを通し生徒の支援。</p> <p>エ・学校教育自己診断[80.9%](○) ・学校教育自己診断[78.4%](○)</p>

## 府立信太高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ</p>	<p>(1) 授業力向上。 ア 10年研チームを中心とした授業力向上。  イ ユニバーサルデザイン、ICTを活用した授業構築。 ウ オンライン学習・タブレット学習の研修  エ 公開授業、教職員研修を充実させる。 オ 教員相互の授業見学を推進する。 (2) キャリア教育を充実させ進路保障をしていく。 ア 3年間を見通したキャリア教育。</p> <p>イ キャリアパスポート活用の研究。  ウ 全生徒の資格取得の推進。  エ スポーツ科学専門コースの充実。</p>	<p>(1) ア 10年研チームが10年経験者研修と連動させ、研究授業や課題解決型自主研修などを主催し授業力向上を図る。  イ ユニバーサルデザイン (UD)、ICT を意識した授業力向上のための交流を他校と行う。UD 授業推進リーダーの育成。 ウ GIGA スクール委員会を設置、タブレット端末活用授業について研究、普及に取り組む。  エ 泉大津市教委との連携事業による公開授業・研究授業の実施および参加。 オ 公開授業期間に相互見学を推奨。 (2) ア・進路指導は、2年3学期を3年0学期と位置づけ3年1学期のスタートをより良いものにする。 ・「総合的な探究の時間」において、専門学校等の外部人材を活用し、職業観を育成する。 ・「学力生活実態調査」「基礎学力調査」の継続的な活用を行う。  イ キャリアパスポートを有効活用するために内容をブラッシュアップする。  ウ 漢字検定、毎日パソコンコンクールの全員受験を継続するとともに、英検の受験も推進する。  エ・スポーツ科学専門コースによる支援学校交流。 ・専門コースとして学んだ知識、技術、戦術や練習に取り組む姿勢などを日常生活に反映させ進路実現の糧とする。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」70%以上を維持。[75.6%] ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」80%以上を維持。[89.4%] ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.2以上。[第1回3.28 第2回3.27] ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.2以上。[第1回3.31 第2回3.34] イ・授業力向上のための他校交流を1回以上実施。  ウ・授業におけるタブレット端末使用率20%以上。  エ・近隣中学校との情報交換、授業交流を1回以上実施。 オ・公開授業週間を年2回実施 (2) ア・卒業時の進路決定率95%以上。[100%] ・生徒・保護者の進路指導満足度ともに80%以上維持。[生徒88.5%、保護者79.1%] ・就職内定率、100%の継続 ・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」55%以上。[51.4%] イ・行事等の振り返り内容を学年ごとに精査。  ウ・漢字検定3級以上の合格率前年度以上。[19.4%]  エ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「興味・関心」3.70以上。[第1回3.6 第2回3.6] ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「知識・技能」3.70以上。[第1回3.7 第2回3.6]</p>	<p>ア・学校教育自己診断 [73.6%] (○) ・学校教育自己診断の [88.7%] (○) ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」[第1回3.31 第2回3.28] (○) ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」[第1回3.36 第2回3.30] (○) イ・すながわ高等支援と交流 (○)  ウ・タブレット端末使用率(使用教員の割合) 1学期66.7%、 2学期80.5% (◎) エ・和泉市立誠風中学校へ出前授業、出身中学へビデオメッセージ送信 (○) オ・公開授業週間6月、11月実施 (○) (2) ア・卒業時の進路決定率 [100%] (◎) ・生徒・保護者の進路指導満足度 [生徒84.5%、保護者74.5%] (△) ・就職内定率 [100%] (○) ・学校教育自己診断 [47.2%] (△) コロナ禍 イ・3年間の振り返りを保存し、3年次の自己実現に活かしている ウ・漢字検定3級以上の合格率[33.5%] 毎日パソコンコンクール学校別平均ポイント全国4位 (◎) エ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」[第1回3.7 第2回3.6] ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」[第1回3.7 第2回3.7]</p>
---	---	--	--	--

## 府立信太高等学校

<p>3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実</p>	<p>ア 部活動・行事の一層の充実、環境整備。</p> <p>イ 行事を楽しみ、運営経験を積むことができるよう指導する。</p> <p>ウ 部活動などで中学校や地域との交流を推進する。</p> <p>エ スポーツ科学専門コースの充実。(再掲)</p> <p>オ 積極的な情報発信とPTAとの連携。</p>	<p>ア 誰もが部活動に入れるよう、部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化的活動推進のための、大学や専門学校による出前講座の実施。</li> </ul> <p>イ 楽しむ行事の実施(合唱コンクール、クラスマッチ)。学年規模の行事運営経験を積ませ、学校規模の大きな行事運営能力を育成する。</p> <p>ウ 近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動を再開。</li> </ul> <p>エ スポーツ科学専門コースによる支援学校交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門コースとして学んだ取り組む姿勢を地域連携事業や学校行事などで実践する。</li> </ul> <p>オ 中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ・ブログの充実、学校案内リーフレットの改訂、広報グッズの活用により、積極的に情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと協力し保護者へ信太の取組み情報発信</li> </ul>	<p>ア 1年部活動加入率45%以上。</p> <p>[1年53%、全学年45%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断での「学校生活充実度」70%以上維持。[75.6%]</li> <li>・出前講座を1回以上実施。</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断での「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」前年度以上に。[68.9%]</p> <p>ウ 地域行事参加年間5回以上。[0回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動年間5回以上。[0回]</li> <li>・中学生対象部活動行事年間10回以上。[10回]</li> </ul> <p>エ 学校教育自己診断「部活度が盛んで熱心に取り組まれている」前年比以上[88.3%]</p> <p>オ 校内での学校説明会年5回、体験入学満足度100%を維持。[100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問1・3年生の出身校のべ100校以上。[0校]</li> <li>・ブログ更新を平均して月に2回以上</li> </ul>	<p>ア 1年部活動加入率[1年30.4%、全学年39.5%](△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断[71.9%](△)</li> <li>・近畿職業能力開発大学校出前授業実施(○)</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断[65.6%](△)</p> <p>ウ 地域行事参加年間[0回](△)コロナ禍</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動[10回]近隣公園清掃含む(○)</li> <li>・各部中学生招待合同練習実施[10回](○)</li> </ul> <p>エ 学校教育自己診断[86.8%](○)</p> <p>オ 校内での学校説明会年5回、体験入学満足度[95.5%](○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問1・3年生の出身校のべ20校(コロナ禍により広報資料は郵送に切り替え、情報共有のための訪問のみ実施)</li> <li>・ブログ更新50本</li> </ul>
<p>4. 共生推進教室の充実</p>	<p>ア すべての生徒と「ともに学び、友と育つ」教育の推進。</p> <p>イ 共生生徒の自立に向けた取組みを支援する。</p>	<p>ア 「障がい理解HR」において、障がいのある生徒とない生徒が、あらゆる行事とともに参加することの大切さを教え、それに必要な配慮を行う。</p> <p>イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSTを取り入れた自立活動の授業を行う。</li> <li>・学校説明会等において、共生生徒が中心となり、「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。</li> <li>・自己肯定感育成のための活動を計画する。</li> </ul>	<p>ア 学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」生徒、保護者ともに前年度以上。[生徒84.2%、保護者79.0%]</p> <p>イ 共生生徒の進路実現100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信太ファーム</li> </ul> <p>共生生徒のSSTを取り入れた自立活動の一環で農作物を栽培し、作業を通して自己肯定感や達成感を持たせ、自立を促す。</p>	<p>ア 学校教育自己診断[生徒84.5%、保護者72.4%](△)</p> <p>イ 進路実現[100%](◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信太ファーム</li> </ul> <p>作業を通して自己肯定感や達成感を味わい、協働することを学んだ。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生生徒が学校説明会で活躍。また、府教育センター開催の実践報告会で生徒が舞台に立つ。(◎)</li> </ul>
<p>5. 「チーム信太」体制づくり</p>	<p>ア 教職員のアイデアの発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。</p> <p>イ 働き方改革を推進。</p>	<p>ア 職員会議、教職員研修を通して、教職員の学校運営参画意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメント委員会を中心に、学校目標を実現するための教育課程を編成する。</li> <li>・経営推進費への応募、校長マネジメント経費活用など、学校運営アイデアを募集する。</li> </ul> <p>イ 業務の効率化について研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月あたりの超過勤務時間80時間以上の人数を減らす。</li> <li>・休暇休業制度の普及と振替休日取得の推奨。</li> </ul>	<p>ア 学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。[61.7%]</p> <p>イ 超過勤務時間80時間以上のべ人数の比率を昨年度以下。[5.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性育児休暇取得促進、遅出・早出勤務や年休が取りやすい職場の雰囲気づくり。</li> </ul>	<p>ア 学校教育自己診断の教員[66.0%](△)増加はしたものの更に活発な議論を期待したい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策等支援事業費を職員の意見を反映させながら有効活用できた。</li> </ul> <p>イ 超過勤務時間80時間以上のべ人数の比率[4.8%](○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児時短3名、遅出勤務2名。(○)</li> </ul>